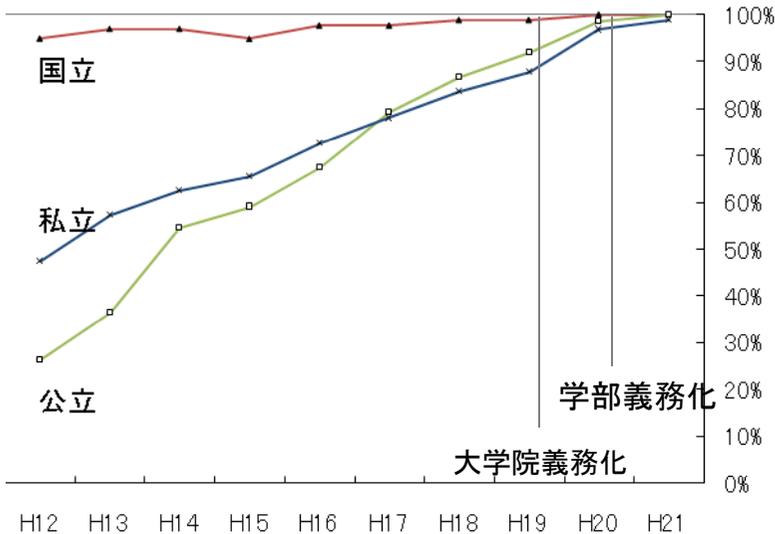


参考資料

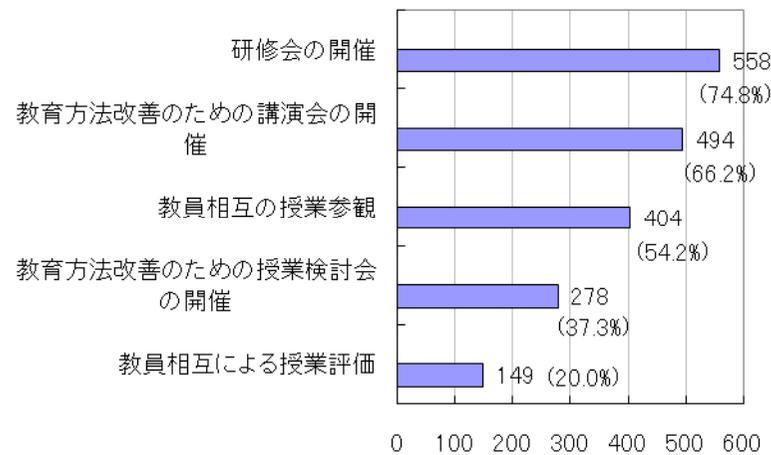
○ 大学連携によるFD・SDの取組	1
○ IRの取組事例	3
○ 教員の教育面の業績評価の実施状況	4
○ 教学担当スタッフ（教学担当副学長等のサポート体制）の配置事例	5

大学連携によるFD・SDの取組

(1) FDの実施率の推移



(実施内容)



(2)



全国私立大学FD連携フォーラム
Japan Private Universities FD Coalition Forum

の例

実践的FDプログラムの開発・活用

- 教員の4つの活動(教育、研究、社会貢献、管理運営)に対して、以下で構成。
 - ①教育学をはじめとした系統的な理論のオンデマンド講義
 - ②授業技術やコミュニケーションスキルを育成するワークショップ
 - ③個々の教員ニーズに応える日常的な教育コンサルテーション
 - ④ポートフォリオの作成支援
- 各大学は、①②の講義・講座を目的に応じて選択し、③④やその他独自の研修などを組み合わせてFDを実施。
大学によっては、学長名の修了証を発行し、専門性の向上を証明できるようにしている。

	レベル1	レベル2	レベル3
教育	講義A (VOD) 講座B (WS)	講義C (VOD) 講座D (WS)	講義E (VOD) 講座F (WS)
	講義G (VOD) 講座H (WS)	講義I (VOD) 講座J (WS)	講義K (VOD) 講座L (WS)
社会貢献	講義M (VOD) 講座N (WS)	講義O (VOD) 講座P (WS)	講義Q (VOD) 講座R (WS)
管理運営	講義S (VOD) 講座T (WS)	講義U (VOD) 講座V (WS)	講義W (VOD) 講座X (WS)

【新任教員対象プログラム】

講義A (VOD)
+
講座B (WS)
+
講義C (VOD)
+
講座D (WS)
⋮

【職員対象(SD)プログラム】

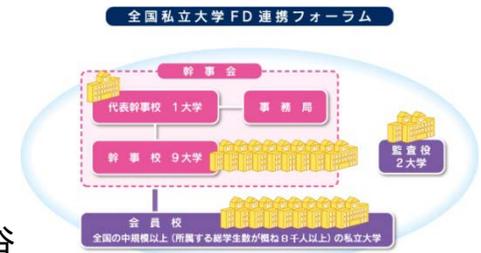
講義S (VOD)
+
講座T (WS)
+
講義U (VOD)
+
講座V (WS)
⋮

※VOD：オンデマンド講義/WS：ワークショップ

各大学の対象者や実施目的の違いによって、講義 (VOD) や講座 (WS) を選択し、様々なプログラムを作ることができます。

(参加大学)

代表幹事校：立命館
 幹事校：関西、関西学院、慶應義塾、中央、同志社、法政、明治、立教、早稲田
 会員校：青山学院、神奈川、北里、京都産業、甲南、國學院、国士館、芝浦工業、創価、中部、帝京、東京農業、東北学院、名城、龍谷



(参考) 実践的FDプログラム 2012年プログラム一覧

○ オンデマンド講義

講座名	テーマ	講師 (敬称略)	所属 (※撮影時点)	対応 言語
高等教育論 I	現代の高等教育	金子 元久	東京大学	日・英
高等教育論 II	高等教育研究史	有本 章	比治山大学	日
高等教育論 III	大学改革と FD 研究	江原 武一	立命館大学	日・英
高等教育論 IV	大学評価論	安岡 高志	立命館大学	日・英
高等教育論 V	高等教育政策:戦後日本の大学政策(転換期の大学政策、海外との比較)	高野 和子	明治大学	日
高等教育論 VI	接続教育 I:初年次教育の取組	山田 礼子	同志社大学	日
高等教育論 VII	大学の国際化	モンテ・カセム	立命館大学	日・英
教授学習理論 I	教授・学習の理論と教育実践(1)	永野 和男	聖心女子大学	日・英
教授学習理論 II	教授・学習の理論と教育実践(2)	永野 和男	聖心女子大学	日・英
教授学習理論 III	アクティブ・ラーニングの理論と実践における課題	三浦 真琴	関西大学	日
教育方法論 I	教育工学の観点から	林 徳治	立命館大学	日・英
教育方法論 II	高等教育における授業技術	木野 茂	立命館大学	日・英
教育方法論 IV	学習教材作成における著作権等の理解	坂井 知志	常盤大学	日
教育方法論 V	学生授業評価の読み方と授業への活用	安岡 高志	立命館大学	日
教育方法論 VI	情報活用基礎:ICTを活用した学習コミュニティづくり	中島 英博	名城大学	日
授業設計論 I	大学の授業の設計	沖 裕貴	立命館大学	日・英
授業設計論 II	授業設計と授業方法・技術・評価	横田 学	京都市立芸術大学	日
教育評価論 I	成績評価の意味と方法	鳥居 朋子	立命館大学	日・英
教育評価論 II	目標測定に基づく評価	野嶋 栄一郎	早稲田大学	日
教育評価論 III	ティーチング・ポートフォリオとは	栗田 佳代子	大学評価・学位授与機構	日
心理学 I	青年期の心理	白井 利明	大阪教育大学	日・英
心理学 II	発達の原理と各段階の特性	西垣 順子	大阪市立大学	日・英
心理学 III	臨床心理学の基礎と応用	串崎 真志	関西大学	日・英
心理学 IV	発達障害のある学生の学び -アスペルガー症候群を中心に-	荒木 穂積	立命館大学	日
研究者倫理 I	教員と学生の教育・研究を促進するツールとしての研究倫理	望月 昭	立命館大学	日
研究のアウトリーチ活動 I	研究者にできる多様なアウトリーチ活動の紹介	半田 利弘	東京大学	日
大学管理運営 I	大学教職員のための大学管理運営基礎	肥塚 浩	立命館大学	日・英
大学管理運営 II	近年の大学改革の進展を踏まえた大学管理運営の新たな発想	山本 真一	広島大学	日・英
大学管理運営 III	リスクマネジメント:大学教員のためのキャンパスハラスメント	井口 博	東京ゆまにて法律事務所	日
大学管理運営 IV	IR 入門	鳥居 朋子	立命館大学	日
大学管理運営 V	業務改善のための IR	池田 輝政	名城大学	日
大学管理運営 VI	ADMINISTRATIVE STAFF DEVELOPMENT 大学管理職の職能開発	ブルース・ストロナク	テンブル大学ジャパン	日・英
大学管理運営 VII	PDCA サイクルを理解する	安岡 高志	立命館大学	日

FD概論 I	大学におけるミクロ・モデルレベルでのFD活動	佐藤 浩章	愛媛大学	日
FD概論 II	大学におけるマクロレベルでのFD活動	川島 啓二	国立教育政策研究所	日
プロジェクト・マネジメント	FD 活動推進等の大学経営革新に活かすプロジェクトマネジメント	牧野 光昭	(社)日本能率協会	日

など

○ ワークショップ

講座名・テーマ	到達目標	開催日	講師
「教育方法論演習 II」 良い授業のための留意点 -話し言葉に着目して~ 図形並べ	①自分の指示すべき情報が、どの程度、口頭で的確に伝達されるかを体験する(知識) ②フィードバック(質問、聞き直し)がある場合とない場合で、どの程度口頭による指示の伝達が異なるかを体験する(知識) ③教員が得意とする言語情報(verbal communication)の限界を体験する(知識、技能)	2012年 7月14日 (土)	林 泰子 立命館大学 教育開発推進機構 講師
「教育方法論演習 III」 良い授業のための留意点 -非言語・視覚情報の応用~ 無言面接	①自分の表情、アイコンタクト、態度が他人に与える印象を知る(知識) ②状況に応じて自分が相手に好印象を与える表情、態度、アイコンタクトを演じることができる(技能)	2012年 7月14日 (土)	鳥居 朋子 立命館大学 教育開発推進機構 講師
「心理学演習 I」 聴き手に求められる力	①聴き手の姿勢や態度が話し手の話す意欲に影響することに気づく(技能) ②話す意欲を高める/損なう要因を知る(技能)	2012年 8月2日 (木)	林 徳治 立命館大学 教育開発推進機構 講師
「教育評価論演習 II」 ~ティーチング・ポートフォリオを作成することができる(技能) ②授業改善のためティーチング・ポートフォリオを積極的に活用する(態度)	①実際のシラバス教材、評価アンケートの結果など、自分の教育活動の根拠となる資料を用いて、ティーチング・ポートフォリオを作成することができる(技能) ②授業改善のためティーチング・ポートフォリオを積極的に活用する(態度)	2012年 8月2日 (木)	鳥居 朋子 立命館大学 教育開発推進機構 講師 林 泰子 同講師
「授業設計論演習 I」 シラバスと授業の到達目標の書き方	①シラバスと授業の到達目標を観点別に行動目標で表現できる(技能)	2012年 9月20日 (木)	沖 裕貴 立命館大学 教育開発推進機構 講師
「授業設計論演習 II」 強制連結法による授業設計	①強制連結法を用いて授業を設計することができる(技能)	2012年 9月20日 (木)	沖 裕貴 立命館大学 教育開発推進機構 講師
「授業設計論演習 III」 マイクロティーチングと評価	①強制連結法を用いて設計した授業を実施、相互評価することができる(技能) ②公開授業等において、授業評価を行う際に求められる観点を知り、適切な評価を行うことができる(技能、態度)	2012年 9月20日 (木)	沖 裕貴 立命館大学 教育開発推進機構 講師
「教育評価論演習 I」 学習到達度評価~ルーブリック評価の実践	①授業の到達目標に合った試験、課題等が作成できる(技能) ②学生に対し評価の観点や評価方法について適切に説明できる(技能) ③評価結果を学生にフィードバックすることができる(技能)	2012年 9月21日 (金)	沖 裕貴 立命館大学 教育開発推進機構 講師
「心理学演習 II」 受容的に聴く力~ イス・バラ法	①大、バラ法を用い、「あいづち」や「相手の言葉を繰り返す」技術を身に付ける(技能) ②相手の話の背景にある意見や気持ちを思い浮かべることができる(技能)	2012年 11月10日 (土)	川那部 隆司 立命館大学 教育開発推進機構 講師
「心理学演習 III」 アサーション・トレーニング	①自分の指示や指導の仕方の特徴を知る(技能) ②自分の気持ちも相手の気持ちも大切に指示、指導ができる(技能)	2012年 11月10日 (土)	安岡 高志 立命館大学 教育開発推進機構 講師
「教授学習理論演習 I」 アクティブ・ラーニングの方法と実践~ ピア・サポーターの活用を中心に	①ピア・サポーターを活用したアクティブ・ラーニングの方法を修得し、実践することができる(技能) ②各自が実践しているアクティブ・ラーニングの交流を通して、自らの授業を省察できる(態度)	2012年 12月1日 (土)	江原 武一 立命館大学 教育開発推進機構 講師
「教授学習理論演習 II」 アクティブ・ラーニングの方法と実践~ ICTの活用を中心に	①ICTを活用したアクティブ・ラーニングの方法を修得し、実践することができる(技能) ②各自が実践しているアクティブ・ラーニングの交流を通して、自らの授業を省察できる(態度)	2012年 12月1日 (土)	宮浦 崇 立命館大学 教育開発推進機構 講師

IRの取組事例

相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出－国公立4大学IRネットワークの例

構成大学：同志社大学(代表校)、
北海道大学、大阪府立大学、甲南大学

- 国公立4大学の連携により、学生調査分析を軸とするIR機能の開発を基盤として、IRを通じた連携大学間での相互評価の結果を学士課程教育の質的向上に結びつける質保証システムの創出と全国規模のIRコミュニティの育成を目指す。

連携取組の内容

- ・4大学IR学生調査ネットワークの構築と活用
- ・連携大学間におけるIRネットワークシステムの構築
- ・IRネットワークを活用した相互評価とベンチマーキング
- ・IR人材育成のためのワークショップ事業

期待される効果

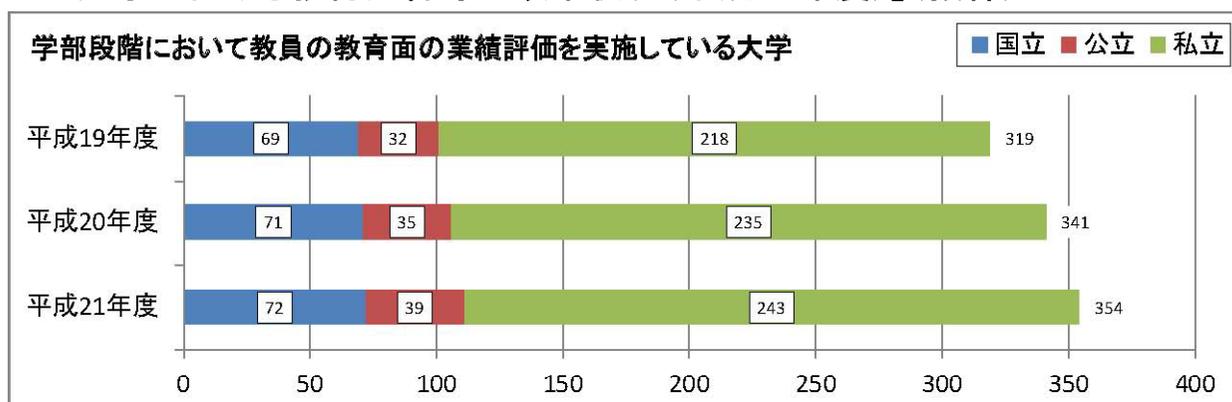
- ・設置形態の相違を超えた国公立4大学の連携による、学士課程教育の質保証に向けた新たなモデルの構築
- ・学生調査に基づくIRの展開により、4大学それぞれの長所・短所を把握、さらにPDCAサイクルの常態化による短所の改善と長所の更なる伸長
- ・IRのノウハウの共有化によるIR人材育成と日本版IRモデルの構築
- ・英語科目のナンバリング制の実施による、汎用性のある英語ベンチマークの設定



→ 4大学連携により開発したシステムやノウハウを基盤としたコンソーシアムをH24.7に設立予定。

教員の教育面の業績評価の実施状況

「大学における教育内容等の改革状況(平成21年度)」(抜粋)



(実施例)

○北見工業大学

評価項目は、授業負担(学部等区分、単位、受講学生数、授業開講数等)、授業評価(学生授業評価、自己評価)、学生指導(卒論等の学生指導、学生の学会発表指導)等。

評価結果は、各年度毎に取りまとめ、学外に広く公表するとともに、教育研究費配分、賞与、昇給等に活用。

○三重大学

評価項目は、担当科目数、指導学生数、授業外のゼミ等の学習・研究指導時間数、教育内容・方法面での取組、学生支援の取組、FD活動等。

「特に優れた者」と「改善を促す必要のある者」を特定し、学長に報告。平成21年度より給与面でのインセンティブを付与。

○秋田県立大学

評価項目は、「授業の目的や明確さ」、「事前準備」、「授業に対する熱意」、「授業内容や進め方」等。

外部評価者と委託契約を結び、全ての教授、准教授の授業評価を実施。

○岩手医科大学(歯学部)

評価項目は、講義・実習・演習、チュートリアル、オフィスアワー、課外活動、各種試験出題、大学院・研究生に対する指導、FD参加等。

それぞれの実総時間を調査し、評価点を算出し、学生による評価も実施。評価結果は、教員本人に通知。

○芝浦工業大学(工学部)

答案の電子化で習熟度を数値化し、統計的に把握。教育賞を与えFD講演会でプレゼンを実施。

「国立大学法人・大学共同利用機関法人の平成21年度に係る業務の実績に関する評価の概要」(抜粋)

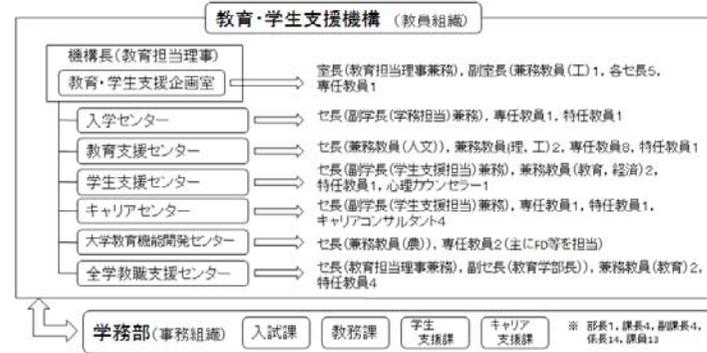
○ 教職員の個人評価結果を給与等処遇へ反映している法人が平成20年度と比較すると14法人(28%)増の64法人(71%)と大幅に増加しており、全体の7割を超えている。

(平成21年度:64法人(71%)、平成20年度:50法人(56%)、平成19年度:34法人(37%)、平成18年度:19法人(21%)、平成17年度:9法人(9%))

教学担当スタッフ（教育担当副学長等のサポート体制）の配置事例

○新潟大学 教育・学生支援機構

1. 入学者の選抜に係る調査・分析
2. 入学者選抜試験の実施方法等の改善
3. 入試広報
4. 学士課程教育の実施と改善
5. 大学院課程教育の実施と改善
6. 副専攻プログラムの実施と改善
7. 学士力アセスメントシステム(NBAS)の開発と運用
8. 学生の修学支援及び生活支援
9. 学生相談
10. 学生の就職等進路支援
11. 教員の教授方法等の改善・向上のための研修の実施
12. FDの整備及び実施
13. 教員養成の支援
14. その他教育、学生支援等の改善に関し必要な業務



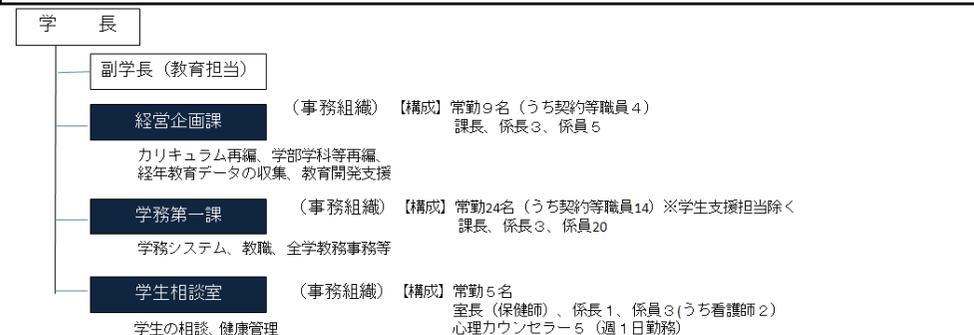
【スタッフの能力開発等】
自己啓発支援と能力開発のための職能開発研修を実施

○北九州市立大学

【学位授与方針等の作成と、これを踏まえた教育課程の見直しなどの大幅な見直し】
経営企画課(事務組織)が学長・副学長の下に各種委員会やワーキンググループ、カリキュラムコーディネーター等を組織してサポート。

【通常の教育内容・方法の見直し】
学務第一課(事務組織)が学部教授会、教務部委員会等をサポート。

【教育改善に向けた教育情報の収集・分析】
副学長を室長とする「教育開発支援室」を設置し、経営企画課がサポート。
学生の健康管理、心理面への対応として、学生相談室に保健師、看護師、心理カウンセラーを配置。

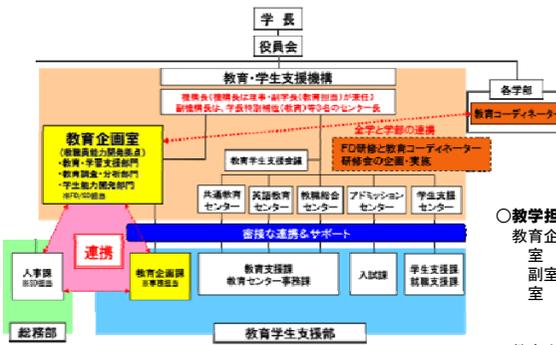


【スタッフの能力開発等】
各種事務研修のほか、専門スタッフとしてアドミニストレーターを養成(桜美林大学大学院に職員1名派遣)

○愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室

1. 全学的な教育課題に係る調査・研究
2. 教育の質保証のための教職員の能力開発
3. 授業評価及びシラバスに関すること
4. 学生の学習支援及び能力開発
5. その他教育開発に係る調査、研究等

【教育企画室の概要】
教職員能力開発のための研修の企画・実施・教材開発・講師派遣、各種コンサルティング、FD/SD実践の指導者の育成、及び愛媛大学が代表校を務める「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)」の業務など、学内外で幅広く活動を実施。
また、学内ネットワークのハブ機能も担う。

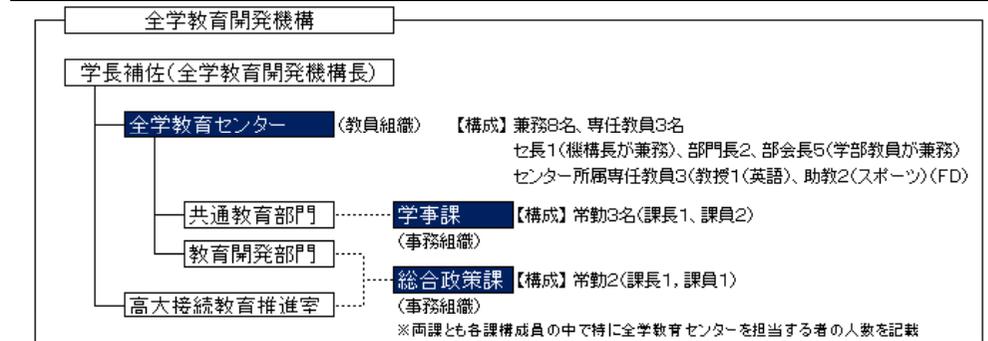


○**教育担当スタッフ配置状況**
 教育企画室(教員組織) 8名(専任7名、兼任1名)
 室長: 1名 教授1(医学教育)
 副室長: 2名 教授1(高等教育経営)、准教授1(職業教育学)
 室員: 5名 准教授1(青年心理学)、助教2(教授システム学)(水文学)
 特任助教2(組織心理学)(高等教育政策)
 教育企画課(職員組織) 16名
 課長1、係長2、課員5、非常勤8

【スタッフの能力開発等】
FD担当者: ファカルティ・ディベロッパー養成講座や諸外国のFD担当者向けプログラムへの参加、学内外で研修講師を担当することによる実践者としての力量形成。
SD担当者: SDC(スタッフ・ディベロップメント・コーディネーター)の認定制度を創設し、SDCに必要な知識・技能の習得を奨励。SPODでは、次世代リーダー養成研修や講師養成研修など内部講師を養成するための研修を提供しており、これらに参加することによって、能力開発を日常的に実施。

○日本福祉大学 全学教育開発機構

1. 全学および学部間共通科目の研究・開発
2. 全学的なFDをはじめとする教育力向上のための研究・研修事業
3. 入学前教育、初年次教育、教養教育、語学教育、情報教育、体育教育などの共通教育プログラムの研究・開発
4. ICT活用による教育の情報化の推進
5. オンデマンド教材の研究・開発
6. 学生の基礎学力サポート
7. 高大接続教育の推進



【スタッフの能力開発等】
 オンデマンドコンテンツの開発を通じた教育改善やFDを実施する上で必要となるインストラクショナル・デザインの能力開発を実施(熊本大学大学院に職員2名派遣)